

羊ヶ丘養護園安全委員会だより特別号

安全委員会設立 14 周年記念号

令和7年2月1日
発行者 有田・一戸

羊ヶ丘養護園安全委員会設立 14 周年の記念集会を 12 月 11 日(水)に開催をする事が出来ました。今年で安全委員会設立から 14 年を迎え、この 1 年を振り返りながら、今年の羊ヶ丘養護園安全委員会のポスターのテーマでもある「Re Start」になぞり、15 年目に向けて子どもと職員一緒に新たな気持ちでまた 1 年頑張っ取り組んでいく為の記念集会となりました。



今年のポスターのテーマは…「Re Start」安全委員会の記念集会に向けて、毎年恒例、各ユニット・各ホームの子どもたちと職員で記念ポスターの製作をしました。

14 周年になる今年のテーマを決める時に事前に実施をした、安全委員会課の先生のアンケートの中にあつた「些細な事に動じない心を持ってほしい」「みんなで楽しく生活出来るように、みんなで考えてほしい」「みんなで再出発をする時」という願いを込めて、「Re Start」というテーマに決まりました。

ポスターのデザインは、陸上競技のスタートの瞬間を題材に、陸上のシューズをモチーフにしたカードに、それぞれのユニットやホームの年間で取り組んでいきたい目標やテーマをデザインして、今年のポスターが完成しました。 いいね!! 15周年に向けて頑張ろう

今回の記念集会では、この 14 年間の歴代の安全委員会の記念ポスターも展示をしました。毎年、みんなで考え目標に向かって頑張ってきた歴史があります。14年、安全委員会を継続して来たことは素晴らしいと思います!! これからも安全委員会の3つの約束「叩かない」「口で言う、優しくいう」「相手が悪くても叩かない」の約束を守りましょうね 園長先生より



～澤委員長先生からのメッセージ～



安全委員会の 14 周年～「14 歳」の Re start に思うこと

羊ヶ丘養護園安全委員会の 14 周年を、心からお祝い申し上げます。

「14」という数字から、皆さまはどのようなことを思い浮かべますでしょうか。バレンタインデー(2/14)やホワイトデー(3/14)、あとは 2 週間などでしょうか。いろいろ調べてみましたが、前後の「13」や「15」に比べるとやや影が薄いかもしれません。

私が思い浮かんだのは、「14 歳」でした。心理学で 14 歳は、「青年期」という発達段階が本格的に始まる一つの区切りの年齢(*いろいろな考え方がありますが)として、比較的なじみ深い年齢です。この時期は、こどもからおとなへとゆるやかに移り変わっていく時期で、「変化」がその特徴とされています。

人間であれば、14 年を迎えるころには様々なことが変わってきます。たとえば、体つきが大きく変わりますし、考え方や感じ方も変わります。周囲とのかかわりや生活の場も、大きく変化することでしょう。リアル 14 歳を迎えた(迎えたことがある)方はご存じの通り、進路選択などを通してこれからの歩みを考える時期であり、そしてたくさんの不安を感じる時期でもあります。

羊ヶ丘養護園の安全委員会も、羊ヶ丘養護園や世の中自体の大きな変化のなかで、14 歳を迎えたことと思います。その取り組み方にも工夫を重ねられ、求められることも変わるなかで、変えてはいけないうものや変えた方がよいものを話しあいながら、現在に至ったことでしょう。その大きな移り変わりの時期のテーマとして選ばれたのが、「Re start」という言葉であり、それぞれのユニット・ホームで描かれた靴のイラストでした。「よい靴はよい場所に連れていってくれる Chi viaggia con le scarpe d'oro, può arrivare sino alla fine del mondo」というイタリアのことわざがあるそうですが(長靴のような形のイタリアでこういうことわざが生まれるのが何ともおしゃれと感じます)、新たなステップへと歩みを続けていく、羊ヶ丘養護園の安全委員会にふさわしいテーマだと感じました。

羊ヶ丘養護園の皆さまには、ぜひ、ユニットごとに、あるいは一人ひとりに合った「靴」を選んでほしいと思います。幼児さんには動きやすくケガをしにくい「靴」を、小学生の皆さんはいろいろな活動をのびのび行えるように、走りやすく脱いだり履いたりしやすい「靴」がよいでしょうか。中学生や高校生になると、部活や習い事、アルバイトなどの場面に合わせた「靴」が、新しい場所に誘ってくれることでしょう。それぞれの生活や目標に合わせていろいろな「靴」を選ぶように、今の私たちにとっての安心・安全とは何かを考えてみていただければと思います。

安全委員会では、一歩また一歩と、皆さまがよりよい場所に向かっていくためのオーダーメイドの「靴」=「安全委員会」づくりを、お手伝いしていきたいと思っています。活動に対するご意見やご要望などがありましたら、ぜひお気軽にお寄せください。これからもよろしくお祈りします。

委員の皆様 いつも子どもたちの事を応援して頂きありがとうございます。

これからも、羊ヶ丘養護園の安全委員会を支えて頂ければ嬉しいです。子どもたち健やかな成長を願う子どもたちと一緒に頑張ります。よろしくお祈りします。 大畑施設長

～子どもからの意見表明～

各ユニット・ホームから代表して1名ずつの児童が、記念集会の中で意見表明をしてくださいました。スペースの関係上全てを載せることができませんが、意見表明の中の一部を抜粋させていただきました。

羊ヶ丘養護園の先生たちは、みんなの成長を楽しみにしています。目標に向かって頑張ろう！！ 大畑先生より

喧嘩やイライラした時、相手が嫌がりそうなことをあえて言っていたかもしれないと振り返りました。相手のことを考えて発言したり、思いやりを持つことが必要だと考えました。
(中学生 女子)

人に嫌なことをしたら、謝ったりすることが大事だし、自分たちで解決するのも大事だと思いました。僕は気づかないところで人を傷つけていることがあるので気を付けて頑張ります
(小学生 男子)

たたかないで、『やめて』って言うようにがんばります！！
(幼児 女子)



思いやりをもって生活すること、ケンカになるような発言をしないこと、トラブルになったり相手を傷つけないよう、後先を考えて行動することを大切にしたいです。
(中学生 女子)

僕の将来の夢は車を作る人になりたいです。なので、心が優しくて応援できる大人になれるよう、暴力・暴言をしないでこれからも過ごして行きたいです。
(小学生 男子)

私はイライラした時に物や人に当たってしまい、よくトラブルになってしまいました。私は今学校に行けていないので、今回のテーマの『Re start』に沿って学校に向かえるように頑張ります。
(中学生 女子)

子どもの意見表明 ～高校3年生 M君～

今年3月で園を巣立つ高校3年生のM君は、羊ヶ丘養護園で14年間を過ごしました。最後の記念集会となる今年、きよたホームを代表して意見表明をする予定でしたが、残念ながらアルバイトの為、集会当日に参加する事ができませんでした。M君の決意表明を今回の特別号に掲載しました。みんな読んでくださいね・・・

もう少しで卒園ですね・・・卒園後も応援していますよ。困ったときはいつでも相談してね！ 大畑先生より

安全委員会14周年誠におめでとうございます。当園で安全委員会方式を導入して14年、私が羊ヶ丘養護園に来て14年になります。なんだか不思議な縁を感じたので、きよたホームを代表して意見表明をさせていただきます。私は、安全委員会があっただけよかったと思います。私自身が加害者になる事もあれば昔は被害者になっていたこともあります。しかし、その都度先生たちがしっかりと向き合ってくれたことを思い出します。

安全委員会があるから『殴れない』『叩けない』という思いは何度もありましたが、今はその事もとても大事であったと振り返ります。社会に出てムカついたから暴力で人を傷つけるという行為は絶対に許されません。今、もし施設の中でイラついて暴力を振ってしまう小学生や中学生がいたら、口で言うようにしてください。養護園の先生はきっと助けてくれると思います。私はあと数か月で羊ヶ丘養護園を卒園します。春からは札幌市内の電線などの点検・修理等をする会社に就職をする事が決まっています。残りの数ヶ月、羊ヶ丘養護園でたくさんの思い出を作りながら、卒業・卒園まで頑張りたいと思います。 高校3年 Mくん

～記念集会後のエピソード～ アンケートより

- ・意見表明で緊張した様子の子もいたが、周りの子から励まされたり、何度も意見表明の練習を重ねて本番に向かうことができました。子どもたちの自信に繋がるような機会になったと思います。
- ・会食中にユニットで、暴力の回数が減った事や、安全委員会連動活動でトラブルをしっかりと解決していていることを話し合い、暴力はいけないという事を再確認することができました。
- ・他のユニットの発表を覚えている子が多く、将来の夢を話していた子どもの話から「〇〇になりたかったら喧嘩したり、人に意地悪してはいけないね・・・」と話をしました。
- ・外部委員の先生から「小さい失敗をしても大丈夫だよ・・・！」と言われて安心した。

何回でもチャレンジしても大丈夫と・・・

大畑先生より・・・ 同じ失敗を繰り返さないように努力しましょうね・・・！！

～記念集会後の ユニット会食の様子～



記念集会後の会食では、毎年恒例のすき焼きを食べました。安全委員会の設立14周年を迎えた今年ですが、この機会に、安全委員会が立ち上がった当時の話をしているユニットもありました。「その頃はまだ自分は生まれてないな～」といった声、高校生の子から「古い養護園の食堂に皆で集まって集会をしたのを覚えている」といった様な話も上がっていました。15周年のパーティーは、どんなご馳走にしましょうかね？

今年度は新しく入所した児童も多かったため、これから「安全委員会って何？」というところから改めて考える、まさに「Re start」というテーマで次の15周年という節目に向けて取り組んでいく為の良いタイミングであり、チャンスなのかもしれないと感じています。

「安全委員会は魔法の杖ではない」ということを忘れてはいけないいつも思っています。安心・安全な生活を作っていく為に、日常から児童と職員共に一緒になって取り組みながら、日頃のケアの中でその地盤を作っていくことが大切であり、そのための一年にしていけるようにしていきたいと思っています。

安全委員会課職員 有田

日々、ユニットの業務に当たる中で安全委員会がどれほど施設に根付き支柱となっているか実感する事が多くあります。新入所児童が増えても変わらないものがある中で「安全委員会って怒られるんでしょ」という言葉を聞いたことがあります。安全委員会は誰かを責めるものではなく、解決するためのものです。安全委員会が正しく認識出来ていけるよう14周年のテーマである「Re start」を意識して皆で15周年に向け頑張っていきたいと思っています。

安全委員会課職員 一戸

